

令和元年度第4回秦野市行財政調査会（行財政経営最適化専門部会）会議概要

|        |  |   |
|--------|--|---|
| 1 開催日時 | 令和元年11月25日（月）午後2時00分から午後4時00分まで  |   |
| 2 開催場所 | 秦野市役所本庁舎4階 議会第1会議室   |   |
| 3 出席者  | 委員   | 坂野部会長、横溝委員、足立委員、其田委員<br>小林委員（欠席）、田村委員（欠席） |
|        | 事務局  | 行政経営課長、同課課長代理、同課担当2名                      |
|        | 関係課等<br>職員   | 総合政策課課長代理、同課担当、観光振興課職員、環境共生課職員            |
| 4 議題   | <p>(1) 地方創生推進交付金の効果検証について</p> <p>(2) 秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（秦野市総合計画後期基本計画リーディングプロジェクト）に係る平成30年度評価について</p> <p>(3) その他</p>   |   |
| 5 配付資料 | <p>次第</p> <p>資料 1-1 地方創生推進交付金の効果検証【外部評価】都心から1時間で出会えるスローライフ体験事業</p> <p>資料 1-2 地方創生推進交付金「都心から1時間で出会えるスローライフ体験事業」概要</p> <p>資料 1-3 スローライフ体験事業の取組み</p> <p>資料 1-4 自動車利用観光客の増加に向けた取組み</p> <p>資料 1-5 観光客消費額の増大に向けた取組み</p> <p>資料 1-6 市内滞在時間の延長に向けた取組み</p> <p>資料 1-7 主要観光地等観光客数（年次別・観光地点別）</p> <p>資料 2-1 地方創生交付金の効果の検証【外部評価】日本有数のカルシウム含有量を誇る名湯「鶴巻温泉」と表丹沢（大山）の地域連携によるまちづくり・経済活性化支援事業</p> <p>資料 2-2 地方創生推進交付金「名湯鶴巻温泉と表丹沢（大山）の広域連携によるまちづくり・経済活性化支援事業」概要</p> <p>資料 2-3 対象地域の位置関係図等</p> <p>資料 2-4 バス実証運行の結果と本格運行実現に向けた計画案の立案</p> <p>資料 2-5 経済活性化策（地域の商業振興策）の立案及び実施</p> <p>資料 2-6 本格運行に向けた環境整備</p> <p>資料 2-7 令和元年度大山ケーブル～鶴巻温泉駅間のバス季節運行</p> <p>資料 3-1 地方創生交付金の効果検証【外部評価】ヤビツ峠周辺観光拠点施設を核とした「森・里・観」連携事業の推進と知己ブランドの確立</p> |   |

|  |  |
|--|--|
|  | 資料 3-2 位置図<br>資料 3-3 平面図<br>資料 3-4 施設立面図<br>資料 3-5 主要な地域資源と森林セラピーロード候補地 全体位置図<br>資料 3-6 ロード各コース<br>資料 3-7 計画立案<br>資料 4 秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（総合計画後期基本計画リーディングプロジェクト）平成30（2018）年度評価報告書 |
|--|--|

## 6 会議概要（要点筆記）

### (1) 開 会

#### 【事務局】

令和元年度第4回目の行財政経営最適化専門部会を開催いたします。

それでは、本日の出席委員数を申し上げます。本日は、小林委員、田村委員が急遽欠席となります。委員定数6名中4名の委員の出席をいただいておりますので、過半数の出席となっております。

調査会規則第6条第2項の規定により会議が成立しましたことを御報告申し上げます。

続いて、本日使用する資料の確認をさせていただきます。

（資料一覧）

ただ今の資料に不足等はございませんでしょうか。

それでは、部会長に御挨拶いただき、引き続き進行をお願いいたします。

#### 【部会長】

今回4回目となりますが、交付金の対象事業の審議をして、そのあと、前回御審議いただいたまち・ひと・しごと創生総合戦略の評価報告書の最終的なチェックをしていくことになっています。

盛りだくさんなので、効率よくいきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

議事に移る前に、会議録の署名委員ですが、規定によって、部会長と部会長が指名した委員1名となっています。名簿順でお願いしたいと考えておりますので、前回は田村委員にお願いしておりますので、今回は、足立委員にお願いいたします。

## **（１）地方創生推進交付金の効果検証について**

### **【部会長】**

それでは、早速、議事に移りますが、議事の１、地方創生推進交付金の効果検証ということで、３つありますが、１つずつ審議していきたいと思います。事務局から説明をお願いします。

### **【観光振興課】 対象事業１—資料１-１～資料１-７について説明—**

#### **【委員】**

一人当たりの観光客の消費額ですが年々落ちていますが、この要因はわかるのでしょうか。平成２７、２８年が５００円台だったものが急激に落ち始めています。

#### **【観光振興課】**

数字が落ちた要因までは究明していません。県の入込調査の方法にしたがって調査をしています。調査をする日に、天候が悪いとか、また、調査対象にしている商業施設が無くなったりしてしまうと、細かい数字が取れなくなってしまう、ある程度数字が変わってくる可能性があります。

ただ、宿泊する観光客が少なく、日帰りの観光客が多いため少額で推移していると考えています。

また、入込調査の消費額というのは、宿泊施設などの観光的な施設の金額を対象とするので、５００円の時よりも観光客数は増えているのですが、観光施設ではやめているところがあったりして、宿泊者数が減っているため、一人当たりの消費額は減ってきています。

県内でも鎌倉などでは、観光施設が多いので一人当たりの消費額は大きいのですが、秦野とか平塚などでは、観光施設が少ないので一人当たりになると低くなってしまいう現象があります。

この事業を使って、何とかそこを増やしていこうとしているところです。

#### **【委員】**

そうすると数字は、調査方法などによって、ズレてくるという認識でしょうか。

#### **【観光振興課】**

地元の商店などの数値が上がってきていないので、観光的な施設、秦野は宿泊施設が少ないので、観光客が増えると一人当たりの消費額は下がって

くこととなります。

**【委員】**

経済効果として、市としては、この単価を増やしていくというよりは、人を増やしていく考えでしょうか。それとも両方でしょうか。

**【観光振興課】**

両方を増やしていきたいと考えています。

**【部会長】**

一人当たりの消費額が535円から388円まで下がるほど、観光者数の母数が増えているわけではないと思います。

統計の取り方の問題で誤差が生じるということはあると思いますが、ここまでの誤差が生じるのでしょうか。もし、そうだとすると、この数字にはあまり意味が無いので、別の数字で検証しないといけないのではないかと思います。

例えば、宿泊施設であれば、その単体で宿泊者数と売上げがどういう風に増えたかを把握できれば、それで済むのだと思います。あえて、一人当たり観光客消費額という数字で表示することが適切かどうかを考える必要があると思います。

**【委員】**

これには、例えば、秦野市内で利用した神奈中のバス代なども入っているのでしょうか。

**【観光振興課】**

バス代は入っていません。

**【部会長】**

主に宿泊施設になるのでしょうか。

**【観光振興課】**

宿泊施設や売店、山小屋など、観光地にあるような場所です。この数字は県の指針に基づいて出していますが、平成30年度から県の指針が変わって、ゴルフ場なども入れても良いということになっています。秦野市はゴルフ場が多いので、そうすると、今度は数字が上がってしまいます。比較できなくなるので、ここには、ゴルフ場の数字は入れていませんが、把握はしています。

**【委員】**

感覚的には、土曜日、日曜日の朝の駅の混み具合なんかを見ているとだいぶ増えているように感じますが、平成27年度から比較すると観光客数は、かなり落ちています。いろいろ手を打っている割には増えていないのが印象としてあります。

**【委員】**

平成28年度から29年度にかけて合計が伸びているにも関わらず、消費が落ちている状況と比べて、平成29年度から30年度にかけては、観光客数が減少している中で、消費額の減り方が小幅にとどまっているという評価はできると思います。

県の基準に従って累年的に取っている統計については、比較を可能とするために対象をいろいろ工夫していると思いますが、観光施設そのものの不足を考えると、ここを定点観測していれば、なんとなく状況が分かるもの、それは新しくできるSAかもしれませんが、市内にそういったものがあると数字の動きを客観的にとらえることができるのではないかと思います。

**【部会長】**

数字の問題は、今後も評価をしていくのであれば、工夫が必要だと思います。交付金の評価ということよりは、市の観光事業がうまくいっているのかということを知るためには、今、お話のあった定点観測することなど、いくつか工夫をされるといいのかなと思います。

**【総合政策課】**

補足になりますが、この事業そのものが、2020年度に全線開通予定であった新東名高速道の開通が背景にありまして、そこに向かってこの事業を実施して、仕掛けを作って、車でインターチェンジを下りた方が市内一周をしてもらうことを大前提にして、取り組んできたものになります。

ところが、新東名高速道路の開通が、2023年度に延びてしまったという状況があります。

**【委員】**

資料1-5の3ページですが、販売促進に向けたお土産袋のデザインはよくなったと思います。

**【部会長】**

ルートを設定して、それをPRする冊子を作られたことは、事業として進展しているのだと思います。情報も盛り沢山です。その結果として、周遊型の期待している観光客数が増えたということが体系的なデータとして取れた方がいいと思いますが、体系的なデータとなっていなくても、ルートの拠点となっているようなところで、商売されている方へのヒアリングなどがあると、新東名が開通していないので、本当の評価まではできていないのですが、効果の表れを実感として感じている人がいるとか、そういったことがわかると思います。

そうであれば、効果があったと言いやすくなると思います。

**【観光振興課】**

パンフレットを配布した施設では、すぐになくなってしまおうという状況で、追加でどんどんほしいという声があります。それで、2、3か月で在庫がなくなっていました。

作成当時は、新聞、タウンニュースにも掲載されて、反響がかなりあり、効果はあったと感じています。

**【部会長】**

今は、在庫が無い状態なのでしょうか。

**【観光振興課】**

現在、在庫はなく、インターネット上でのデータの提供となります。

**【部会長】**

そうするとインターネットへのアクセスの回数はどういった状況でしょうか。

**【観光振興課】**

今、資料を持ちあわせておりません。

**【総合政策課】**

このパンフレットも平成30年度末にできたものですので、これから影響が出てくるものと考えられます。

**【部会長】**

今の段階では、パンフレットの人気があって、すぐになくなったということ

るですね。どういった人が持っていったかは分かるのでしょうか。

**【観光振興課】**

市外の方向けの施設と市内の方向けの施設、両方に置いていますので、両者になると思います。

**【部会長】**

そうすると、市内外の方に関心の高いコースが設定できたのではないかという証拠にはなりませんね。

それから、本当の効果があつたかどうかは、できたばかりですので、これから見守っていかなければいけないのだと思います。

**【委員】**

駅前の観光案内所では、例えば、利用者数や配布したパンフレットの枚数、相談件数などのデータのものは取ったりしていないのでしょうか。

**【観光振興課】**

相談件数は取っていますが、配布部数は取っていないと思います。

**【部会長】**

エリアゲートの登録数ですが、3件ということで、少ないと思いますが、どのように考えているのでしょうか。

**【観光振興課】**

観光農園やいちご狩り、ブルーベリー狩りを中心に、農家と相談してこういったシステムを考えていたところです。

既に別のシステムを契約しているところもあつたりして、併用することが煩雑になるといったこともあり、足踏みしている状況ですが、現在、陶芸や乗馬などの業種にも声をかけているところですので、引き続き、検討していきたいと考えています。

**【部会長】**

既に集客力を持っているところは、独自のシステムを持っているので、今は、このシステムに対してはあまりメリットがない状況ですが、これから集客をしていこうと望んでいるところをターゲットとしていて、これに参加してもらえれば、魅力が増えるので、今まで独自のシステムを持っていたところも参加し

でもらえるという期待があるということですね。

あと、周遊することについてですが、秦野の場合、日帰りの観光客が多いとのことですが、メインのターゲットは日帰りの方で、宿泊はあまり考えないということで良いのでしょうか。

現在の比率で、観光客全体を増やしていこうとしているのか、それとも、滞在型を増やすなどして比率を変えて観光客を増やしていこうとしているのでしょうか。

秦野に来る目的によってお金の落とし方が違うと思います。どういったパターンがあるのか。登山やハイキングで来る方と、いちご狩りで来る方と違うのだと思います。どちらにしても、街中にはなかなか来てもらえないのではないのでしょうか。周遊といっても、ルートは周遊のようになっていますが、来た人が周遊してお金を落とす形にはなかなかないような気がします。そういったところは、どのように考えているのでしょうか。

#### 【観光振興課】

スローライフ体験、ゆっくりと秦野で過ごしてもらおう事業ですが、例えば、半日で帰ってしまう人に対しては、午前中にいちご狩りをした後に、自分たちで獲った農作物を調理して食べてもらう体験をってもらうなど、半日が一日になる、一日が二日になるというように、少しでも秦野での滞在が伸びるような形にしていきたいと思っています。

#### 【部会長】

そういった狙いがあったときに、この3年間事業を行ってきて、その効果に分かる証拠を出してくださいと言ったときに、客観的な売上げのデータとかではなくていいと思いますが、客の傾向が変わってきたといったことは、あるのでしょうか。そういったことが分かれば、思った通りの施策が動いていると説得力を持つような気がします。

いちご狩りや温泉に来る人たちのパターンが変わっているといったことがあるのでしょうか。

#### 【観光振興課】

観光拠点の1つに名水はだの富士見の湯という温浴施設があります。そこは、市の施設ですので、数字を把握しているのです。

西地区に大倉という登山口がありますが、富士見の湯からバスを出して、そこから、人を送迎しているのですが、それに関しては、前年から1万人以上増えているという結果があります。登山だけでなく、温泉とセットで観光して

もらうようにしています。

#### 【部会長】

1つの目的だけでなく、プラス1つ活動を増やしてもらうということが少しずつ動き始めているという間接的な証拠があるということですね。

それも、本当は、データが取れるといいと思います。

目標としては、観光客というよりは、トリップ数の方が意味があると思います。

そういった数字をそれぞれの施設で出すような工夫がされると効果が見えてくるのだと思います。

#### 【委員】

観光農業は、大半がいちご狩り、ブルーベリー狩りだと思いますが、農家の件数が限られていますので、ヒアリングなどを行えば、かなりの傾向がつかめるのではないかと思います。

当然、自然との絡みがありますので、今年みたいに、極端に暑かったりすると収穫が悪くなるので、客数が減ってしまったということがあると思いますが、もう少し、生のデータの集約ができていいと思います。

市としても、これだけPRしているので、数値について協力をお願いすればデータは出してもらえるとと思います。そのあたりは、把握していないのでしょうか。

#### 【観光振興課】

ここに示している落花生、さつまいもなどの観光農園については詳しいデータもあります。いちごについてもデータはもらえると思いますので、御指摘のとおり、今後、把握していきたいと思います。

#### 【部会長】

落花生は増えていて、ミカン狩りは平成27年度からかなり減っているのですね。これも、どう見ていくのか難しいですね。

目標がネットワークで、単体の場所で滞在時間を長くするのは難しいので、もう1つ活動を増やしてもらうことを目標にしていると感じたので、是非、そういうことも、把握していったらいいと思いました。

各施設の合計が増えていれば、総人数が増えているか、もしくはトリップ数が増えているということになると思いますので、ある程度は分析ができると思います。

全体として、効果があったか、なかったかということですが、実績としてはいろいろな活動がされていて、ネットワークもあり、いろいろな事業が実施されています。

ただ、サービスエリアとインターチェンジがまだできていないことから、本来の狙いと評価という段階には至っていませんが、個別の事例で見ると、活動を1つ増やすといったトリップが出てきていることから、効果の萌芽のようなものは観測できていますので、有効であったと言えるのではないかと思いますがいかがでしょうか。

—了承—

ただ、効果検証をするための証拠の取り方については、不十分な点があるのかなと思いますので、最終的なサービスエリアができたときの効果を検証するために、証拠の取り方を工夫していただければと思います。

それでは、次の事業について説明をお願いします。

#### **【観光振興課】 対象事業2—資料2-1～資料2-7について説明—**

##### **【委員】**

弘法の里湯の話を知ると、今の時期、大山からバスで来るお客さんがかなりあるようです。大山の豆腐料理のお店で聞いても、温泉が近くにないですかという問い合わせがあり、バスで鶴巻温泉に行けるようになっていて案内ができています。各料理店などにもポスターが貼ってあって、だいぶ浸透している感じがします。

今年度の数字は分かりませんが、ここ何年かの努力で、ある程度、効果が出てきたと思います。

やはり、山に行った人は、温泉に入って帰りたいという意向はかなりあるようです。進め方によっては効果が出てくると思います。

ただ、鶴巻温泉側の努力もやはり必要だと思います。弘法の里湯も夕方混んでいてゆっくりできないという意見もありますので、そういったところから、よく話を聞いてみたほうがいい気がします。

大山のバス停は、目立つような形になっていますし、ポスターもいろいろなところに貼っています。協力的だなという印象もあります。

この事業について、それなりの成果が上がっていると私は思います。

##### **【部会長】**

バス事業を導入することの目的ですが、もともと需要があるところにバスを通すということなのか、それとも、バスを通すことによってお客さんを増やすという考え方のどちらになるのでしょうか。

今、11月のピークに実施していて、それは、需要があるからリスクはそんなに冒さないで済むのだと思いますが、例えば、他のところで行って、新たな需要を掘り起こして、採算のとれるものを作れる可能性はあるのでしょうか。

**【観光振興課】**

今回は、11月の採算のとれるところで実施していますが、来年度には9月にはやりたい方向では考えています。

大山登山にプラスアルファで温泉があるという1つの観光のメニューとして知ってもらうことで大山観光全体の観光客数を増やしたいことと、さらに、鶴巻温泉に来ていただいて、その周辺でお金を落とさせていただいて、経済の活性化を図りたいと考えております。

今後は、ピークは11月ですが、9月から継続的にバスを走らせることによって、さらにお客さんを増やしていきたいと思っています。

**【委員】**

あと、副次的な効果として、忙しい時期は、秦野・小田原方面から大山の料理店やお土産屋でアルバイトをしている人が結構います。

伊勢原を経由せずに、ダイレクトに、鶴巻に行って帰れると便利という意見もあります。

**【委員】**

伊勢原から大山に行かれるお客さんにも効果がでているのでしょうか。

**【観光振興課】**

大山観光客の全体としては、入込調査の結果で94万人から、昨年99万人に増加していますので、増加傾向にあると思います。

**【委員】**

交通事業者からしても、そっちも増えているのであれば、もっと増やしてもいいかなと思います。

**【観光振興課】**

伊勢原駅から大山ケーブルまでのバス利用者も増加しています。伊勢原から

のバスも増えているので、神奈中も鶴巻からのバスの本格運行をやりましょうとなったのだと思います。

**【委員】**

事業の効果として、広がりがあるのでいいことだと思います。

**【部会長】**

あと、気になるのが、バス会社は乗客が増えていいと思いますが、鶴巻の来客数が増えていないので、その人たちが鶴巻に降りたときに、何もせずに駅に行ってしまうのだと思います。

去年も出たと思いますが、ピーク時に、もっとお客を増やしていこうとしたときに、バスを降りてきて温泉に入ろうとしたら、並んでいて待たされるのはもう嫌だとなるという話があったと思います。そうならないようにするためには、キャパシティは増やせないで、通年で人数を増やしていくなど、その問題をどう解決するかを考えないといけないと思います。

**【委員】**

通年で増やすことと、弘法の里湯ではピーク時の対応に限界あるので、他の温泉旅館がどういう協力ができるか、すそ野を広げる努力をしていかないといけないと思います。行っても混んでいて入れないという状況ではだめだと思います。

それから、小田急の丹沢大山フリーパスでは、弘法の里湯でも割引が適用されますし、当然バスも適用されます。小田急、神奈中がそれだけインフラを整えてくれているので、受け入れ側がどういう対応をするのか、受け入れ態勢のところをもっと真剣に論議しないと中途半端になってしまうと思います。

**【観光振興課】**

バスの利用者については、8割程度の方が温泉に来ていただいております。ただ、御指摘があったとおり、プラスで周辺の商店に行ってもらわないとやはり経済の活性化まで生まれないと思っていますので、今年度についてはチラシの裏面でお店やキャンペーンの御案内をしているところです。継続して、地元中心に続けていきたいと思っています。

あと、弘法の里湯のキャパシティを超える時についてですが、そういった際には、御指摘があったように、現在も案内はしていますが、近くの旅館にも行ってもらう工夫をしていきたいと思っています。

【部会長】

そういうところこそ、当面、行政が入って、きっかけをうまく作る必要があると思います。走り出して、旅館側も一生懸命になってくれるという状況にうまく繋げられるといいと思います。

【観光振興課】

引き続き、検討会において、受け入れ態勢について議論をしていきたいと思っています。

【部会長】

周遊ということで、いちご狩り、ブルーベリー狩りのお客さんに温泉に来てもらうというのは難しいのでしょうか。

【観光振興課】

ルート案内はしています。

【部会長】

それが、どれくらいの方が来ているかというのは、把握していないのでしょうか。通年ということになると、そういった季節性のあるイベントと組み合わせていくことも良いかもしれません。

これについても、先ほどと同じで、有効であるかどうか評価しなければいけません。いかがでしょうか。

有効であったということによろしいでしょうか。

—了承—

今後としては、十分承知していると思いますが、受け入れ側も態勢を検討していかなければいけないと思います。

それでは、3つ目の事業について説明をお願いします。

**【観光振興課】 対象事業3—資料3-1～資料3-7について説明—**

【部会長】

森林セラピーは、今、他の自治体で、人気や注目が高くなっている取組みな

のでしょうか。というのも、認定を取る必要があるということでしたが、簡単に認定してもらえないものなのか、他の自治体も必死になっていて、なかなか認定してもらえないものなのか、状況はどうでしょうか。

#### 【環境共生課】

既に、箱根や山北は認定されていますが、森林があればいいということではなく、散策に適したロードなども必要となってきます。森林セラピーソサエティというところが認定するのですが、1次審査と2次審査がそれぞれあって、審査の基準はかなり厳しいようです。

#### 【部会長】

そうすると、セラピーのロードに認定されるということは、秦野には有用な資産があるということのPRになるということですね。

#### 【環境共生課】

特に、今回、秦野では、5コース申請しているのですが、他の自治体は2コースか、多くて3コースという状況ですので、申請がすべて通った時は、秦野のPRになるのではないかと考えています。

#### 【部会長】

認定の対象は、ロードになるのでしょうか、活動も含めての認定になるのでしょうか。

#### 【環境共生課】

活動、体験プログラムは、対象にはなっていません。あくまで、訪れた方が、自由に散策するためのものとしてのロードが対象になります。

ただ、申請の時点で、地元のボランティアの方を巻き込みながらプログラムは実施しているということは、話をさせていただいています。継続的に、森林セラピーロードというものを市内外に周知できるという点で団体の評価点の中に入れてくると思います。

#### 【部会長】

そういった、外部認証機関から認証してもらおうということはPRになるので、とても意味があると思います。

#### 【委員】

ヤビツ峠のハード整備は、いつ頃からを予定していますか。

**【観光振興課】**

ハードについては、来年度着工の予定です。

**【部会長】**

運営は、市が行っていくことになるのでしょうか。

**【観光振興課】**

公設民営型を考えています。細かい運営手法については検討しています。

**【部会長】**

民営ですね。土産物などを売るのだと思いますが、商売として成立するための自由度がないと難しいと思いました。

**【委員】**

本当は、道の駅のような機能を持たせるといいのですが、山の上ですので、例えば、地元の農家の方が協力するにしても、輸送方法をどうするかとか、誰も住んでいないので、現実的な問題があると思います。いろいろクリアしないといけない問題があるのだと思います。

あと、このこととは直接関係しないのですが、今、森林セラピーロードの6コース目として震生湖周辺などは入れることはできないのでしょうか。

**【環境共生課】**

今回、5コース申請することになりましたが、我々だけでは中々どのコースが適しているのかわからないところがありまして、事前に、森林セラピーソサエティの方にコースについても見ていただいています。

その際、今回の5コースのほかに震生湖も含めた全8コースを見てもらったのですが、なるべく、人工的なものが無い方が望ましいこと、あと、コースの距離が少し短くなってしまうということで、震生湖のコースについては、もう少し検討を重ねる必要があると考え、今回は、見送ることにしています。

また、震生湖コースについては、既に観光コースとしても成り立っていることもあります。

コースの追加は、可能ですので、今後、5コースの様子を見ながら、上地区などのコースも含めて検討を進めていきたいと思っています。

**【部会長】**

これは、申請、着工がこれからですので、それに向けて、着々と事業が進んでいるのだと思います。

有効であったかどうかについては、結果自体はまだ見えていないのですが、有効になるであろう方向性で着々と取組みが進んでいるという意味で、有効であったということによろしいでしょうか。

—了承—

## (2) 秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（秦野市総合計画後期基本計画リーディングプロジェクト）に係る平成30年度評価について

### 【部会長】

それでは、秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（秦野市総合計画後期基本計画リーディングプロジェクト）に係る平成30年度評価について審議していきたいと思います。事務局から説明をお願いします。

### 【総合政策課】 —資料4について説明—

### 【委員】

18ページの外部評価のところですが、子どもの読書活動の推進の意見ですが、意見として出しましたが、ここに載せるほどの内容ではなくて、学校の教育の現場で工夫してもらえれば済む話だと思います。

### 【総合政策課】

今回は、いただいた意見はなるべく掲載する形で報告書を作っていますが、そういった意見であれば、記載を外すように調整いたします。担当課には意見を伝えるようにしていきたいと思います。

### 【部会長】

他は、いかがでしょうか。だいたい整理していただいたように思います。計画を延長するといった話がありましたが、外部評価はどういった形になるのでしょうか。

### 【総合政策課】

今の計画は令和元年度いっぱいまで終了するのですが、現在、新総合計画を策定している中で、この総合戦略を1年間延長して、総合計画と期間を合わせることを考えていますので、そうなると、来年度も評価していただいて、令和2年度までの取組みを評価していただく形になるかと思っています。

交付金についても来年度も評価していただきたいと思っています。

### 【部会長】

全体の意見になりますが、いろいろな集客施設がありますので、それぞれの集客施設にどれくらい来ているのかというのが、本当は、市に来ている人数に

なるのだと思います。概算でもいいので把握できるといいような気がします。

#### 【委員】

施設の趣旨が変わってきてしまうかもしれませんが、野外活動センターなども、宿泊を前提として、専門の業者に任せたら、あれだけの環境があるので、もっとうまい運営ができる気がします。市内には、あまり宿泊施設がないと言いながら、センターは空いているわけですので、それこそ、リゾート系の業者などに任せたら、一気に運営が変わると思います。

#### 【総合政策課】

表丹沢を面的にとらえて、現在、表丹沢の魅力づくり構想の策定を進めています。

その中では、コンサルを入れて進めていますが、野外活動センターは、1つの拠点になっています。今、言われた視点で、どうしたら集客が望めるかということも、検討事項として、利用者アンケートを行ったりしています。

今は、青少年に特化した形となっていますが、それをもう少し制限を外すなど、どうしたら、新東名に乗じて活用できるか、今、検討しています。

#### 【委員】

話に乗ってくるかどうかは分かりませんが、リゾート系の業者に任せたら、一気に変わると思います。コンサルに頼んで、何年もかけて検討するよりも、よほど、効果的だと思います。

#### 【総合政策課】

例えば、首都圏の企業の研修場所として使ってもらうとか、極端に言えば、地方の修学旅行で、使ってもらうとか、そういうところまで行ければ、いいと思います。施設としては、県内随一の秦野産の木材をふんだんに使った施設で、中に入るだけで木の香りがするようなところです。

#### 【部会長】

ハイキング客というのは、どういったところにお金を落としているのでしょうか。高尾山のようなところでは、お土産屋さんもたくさんありますが、そうでないところは、あまりお金の落としようがないかなと思います。

#### 【行政経営課長】

今の季節は、ヤビツ峠に、朝、臨時バスが3台くらい上がっていきますので、

神奈中としては、この季節はいいと思います。

弘法山は、家族連れですとか、年配の方がいますが、帰りに富士見の湯によって帰るかどうか。また、そこで、どれだけのお土産品を買っているのかは、分かりません。

#### 【委員】

データとしては、取れていませんが、駅に降りてからちょっとした買い物などはしているはず。ペットボトルを買ったりはしているけれど、そういったデータが取れていないのだと思います。

#### 【委員】

近場でのハイキングは、主な目的が健康なのだと思います。健康とお金を消費する関係は、ある意味、相対するものでもあると思います。なかなか消費に結びつけるというのは、難しいのかもしれない。

#### 【委員】

農業について、意見を出しましたが、これから、10年、20年先のことを考えたら、秦野市の農業政策をどうやっていくかということがすごく重要だと思います。

人口は、基本的に増えていかないで、農家の人は、これ以上、アパートを建てても仕方がないので、住宅付近の農地をどういう風に扱っていくのか、それから、里山的な整備をどうやっていくのか、里山整備をきちんとしないと、秦野のおいしい水も根拠が崩れてしまいます。

秦野市の観光や環境が絡む農林業は、すごく重要なテーマになってくると思います。でも、今の、農業支援センターなどの話を聞くと、危機感とか、将来的な構想とかが聞こえてきません。秦野市がもっと、農林業をメインのテーマに据えて、それなりの力を入れていかないといけないと思います。

秦野市のせつかくの魅力をどうやってアップしていくかということになってくると思います。

#### 【総合政策課】

今、次の総合計画に向けて、作業していますが、農福連携と国は言っています。農業と福祉の連携です。国が言っているのは、障害者のことを言っていますが、農業は担い手不足、障害者も働くところが少ない、そこをうまくマッチングさせた農福連携を研究して、次の総合計画の中には、障害者だけでなく高齢者、生活保護の方も活躍できる場として、農福の施策の検討は進めてはい

るところです。

**【委員】**

国は言っていますが、それは、魅力増にならないと思います。それはそれで、粛々とやっていけばいい話だと思います。既に、やっているところはやっている取り組みだと思います。

**【部会長】**

他に何かありますでしょうか。

なければ、総合戦略の方は、先ほどの1か所だけ、修正するという事で、よろしいでしょうか。

—了承—

これで、議事2については、終わります。  
その他について、何かありますでしょうか。

**【事務局】 事務連絡**

**【部会長】**

本日は、以上となります。ありがとうございました。

—閉会—